

ベストクラス選定理由書

作成者：有田百花、伊藤博之、田中愛友美、松永詩音、森千華、山田隆行

科目名称	コーディネート研究（昼間クラス） (担当教員名： 石橋 由紀子 、内海 友加利)		
課 程	学部・大学院（修士）	開講時期	後期
授業形態	講義	授業規模	31人以上
インタビュー対象教員名	石橋 由紀子 、内海 友加利 (実施日時： 令和5年9月8日（金） ; 実施場所： Zoomにより開催)		
インタビュー対象受講者名	堀 善仁 (実施日時： 令和5年9月8日（金） ; 実施場所： Zoomにより開催)		
選定理由	<p>「コーディネート研究」の授業のねらいは、特別支援教育及びインクルーシブ教育を推進していくための国内外の関連分野の動向を把握し、重要なトピックについて受講生と共に検討することを通して、洞察する力を身につけることである。</p> <p>この授業の魅力は、多様な背景を持つ受講生に寄り添いながら進められており、理論・概論・演習・交流などの様々な形態の中で、受講生自身が体感しながら学びを深めることができることだと考える。</p> <p>ベストクラスとした理由について、受講生の知識の度合いに応じた資料・論文や YouTube 動画などを提示したり、ロールプレイやワークショップ等の演習を取り入れたりして、二人の先生方が連携しながら対話を大切にした授業が展開されており、受講生から「有意義な講義」と評されていたことが挙げられる。</p> <p>この授業が実施された時期は、コロナ禍が収束し始めた頃であった。しかし、理論や概論だけでなく、ロールプレイやワークショップ等の演習も充実しており、オンラインと対面形式のよさを生かした質の高い学びが提供され、受講生の学ぶ意欲が高められるような環境が設定されていたことが今回のインタビューを通して明らかになった。また、授業の内容に応じてグループ編成を行い、「障がい」をめぐる様々な捉え方を各自で出し合い、考え、ゲストティーチャーからのコメントをいただく等の場が設定されていたことから、多様な学びが保障された有意義な授業であったことが伝わった。ゲストティーチャーは、修了生や特別支援コーディネーター等、現場での経験を積んだ教員であり、迫力や臨場感のある現場での経験談は、受講者にとって新しい問題解決の方法を学ぶことにつながるなど、感慨深いものであったようだ。</p> <p>さらに、今回のインタビューを通して、受講者自身が自分のキャリアプランを見つめ直し、大学院での学びを今後どう生かしていくかということについて、自分ごととして真剣に捉えて考えていたことも明らかになった。</p> <p>特別支援教育は正解がない世界である。受講者同士が、自己主張を通すのではなく、それぞれの考えを出し合い、折り合いをつけながら学んでいくことこそが、私たち大人にとって、本当に必要な学びだと気付かされた。</p>		

学校現場では、配慮を要する児童・生徒は年々増加傾向にあり、特別支援教育及びインクルーシブ教育に関する喫緊の課題が多く、現場はその対応に追われている。そのような現状の中で、まずは教師自身が、インクルーシブな視点を持つことができるように、多様な価値観に触れて視野を広げ、人権感覚のアンテナを磨く努力をしなければならぬと改めて考えさせられた。

以上の理由により、当該クラスをベストクラスとして推薦する。